

宇宙を学べる大学合同説明会 (第2回関東版および第4回中国四国地区)

野澤 恵¹・有本信雄²・伏見賢一³

〈¹茨城大学理学部 〒310-8512 水戸市文京 2-1-1, ²国立天文台大学院教育委員会 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1, ³徳島大学総合科学部 〒770-8502 徳島市南常三島町 1-1〉

e-mail: snozawa@mx.ibaraki.ac.jp

第2回「“宇宙(天文)を学べる大学”合同進学説明会」関東版が2011年11月20日(日)に国立天文台三鷹キャンパスで開催された。初回とは異なる場所であったが、発表、ポスターには約20機関を超える参加があった。記帳したのが100名程度、アンケートの回収が50枚程度であった。また、今年で4回目となる「天文・宇宙が学べる大学」中国四国地区の合同進学説明会が2011年12月3日に徳島大学総合科学部で開催された。中国四国の大学を中心に5大学のプレゼンテーションが行われ、高校生を含めた一般の参加者は8名であった。両者とも回数を重ねるようになったが、まだまだ課題は多々あり、それらの点を克服して、今後につなげていく必要がある。以下に記す内容は、前半部分を関東版(主に野澤が執筆)、後半に中国四国地区(主に伏見が執筆)の紹介をする。

1. はじめに

昨年度に初めて開催した関東版の説明会¹⁾が終わった時に、「全国版を開いたらどうだろうか」という意見が出された。それを数名の方にもちかかけたところ、数カ月後の2011年春季年會に開催されることとなった。そして、全国版合同進学説明会の開催に向けて準備は着々と進み、あとは当日を迎えるだけであった。そして震災が発生した。

自分が体験したこともさることながら、筆舌に表せない状況が発生し、いまだ続いている。しかし、日常は向こうからやってくる。それは、宇宙を学びたい新生生との出会いである。そして、その出会いは心を豊かにする。

2. 当日まで

2.1 関東における準備状況

昨年はサイエンスアゴラの一企画として、お台

場の日本科学未来館で開催された。交通の便は問題なく、会場も吹き抜けという面白い空間であった。しかし声が拡散してしまうなど、吹き抜け特有の問題や希望する場所が取れないなどの面もあった。今回は国立天文台に単独の企画としての説明会の開催はどうかと相談をした。

その窓口になったのは国立天文台の大学院教育委員会である。そして会場として三鷹キャンパスのすばる棟大セミナー室を借りることができた。100名以上を収容でき、ポスター発表に関しても実績のある場所である。

そこで、大学院教育委員会の有本氏などと連絡を取り、日程を11月20日に決め、実行委員会を立ち上げ、広報、準備などの細かな項目を詰めていった。特に天文台の事務の方にはお世話になった。

しかし、広報については十分ではなく、天文教育普及研究会の関東支部の共催の承諾を得たうえ

のWebの作成が遅れてしまい、それがすべてに波及してしまった。特に各大学、機関へのリンク、そして、地学系高校教員へのMLへの送付も後手に回ってしまった。関東圏の都県の教育委員会の高校関係の部署に開催情報をFAXで送信を行った。

ほか、朝日新聞の関東のローカル枠で紹介され、天文系の雑誌のアstroアーツや旺文社の大学受験パスナビのWebニュースなどでも紹介された。しかし、これだけでは不十分であるので、より良い広報の方法を考える必要がある。

2.2 中四国における準備状況

8月上旬に徳島県内の高校に進学説明会の内容と日程について問い合わせた。11月から12月に開催することについて確認し、各高校で模擬試験、体育大会などのイベントがない日を知らせてもらった。その結果をもとにして日程案を作り、中四国の大学に問い合わせ、最も参加者数の多い12月3日に開催することを決定した。

10月ころには高校のほか県内の予備校と塾にポスターを配布し、宣伝を促進した。ほかにも高校生がよく読むタウン誌にイベント情報として掲載を依頼し、掲載された。ということで広報については大きな問題がなく順調に進んでいた。

今回のイベント開催に際して一つ大きな問題が発生した。会場費の問題である。これまで、中四国の進学説明会は大学の教室や科学館を会場に使用していた。世話人になっていただいた方の尽力で会場費の問題は発生してこなかったが、今年は会場費が問題となった。

進学説明会の会場は徳島大学総合科学部の大教室を使用することにしたが、当日の教室予約をしたところ、事務から会場費がかかるとの連絡がきた。昨年あたりから大学の施設使用についてはきちんと使用料を徴収するという方針を強く打ち出してきており、今回の進学説明会の開催についても使用料を徴収するというのであった。このような経費について個人負担にするわけにはい

かず、参加大学すべてで按分して支払うことを検討した。しかし、事務からは複数に分割して支払うことはできないという返事があり、誰が会場費を支払うかが懸案事項となっていた。伏見が大学と交渉することで解決の道を探った。今年は非常に好都合なことに徳島大学総合科学部設立25周年につき、記念イベントを12月に多数開催するという学部長に掛け合ったところ、この進学説明会を記念イベントの一環として開催することの了承を得た。

ここまでで9月になっていたが、広報関連はさらに進めていった。具体的には県内で活発に天文の活動をしている高校への出張授業である。10月から11月にかけて徳島市内の二つの高校へ出張授業に行く機会があったため、その際に進学説明会の参加を呼びかけた。実は、この出張授業があとで裏目に出たようであった。

3. 関東版 11月20日

3.1 当日の動き

午前9時に会場に到着し、一緒にきた学生や天文台の院生で、場所の設営を行う。知っている場所なので、融通が効きやすく、また院生が有能で、ほとんど手を出すことがなかった。タイムスケジュールは以下である。

10:00 受付開始

第1部■宇宙(天文)を学べる研究室と先生の紹介

10:30-11:30 はじめに、各大学の紹介パート1(8大学各7分程度)

11:30-12:30 ランチ&ポスターセッション1

12:30-13:30 各大学の紹介パート2(8大学各7分程度)

13:30-14:30 ポスターセッション2

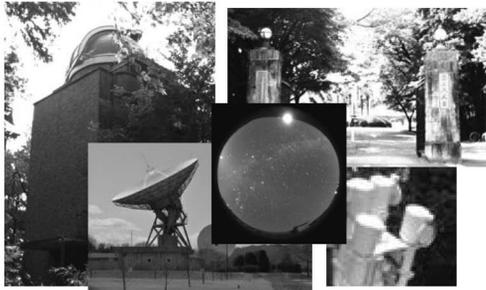
第2部■講演会

14:30-15:30 講師2名

15:30 終了(予定)

参加した大学は最終的にアイウエオ順に、会津

第2回「宇宙(天文)を学べる大学」合同進学説明会」



<p>日時: 2011年11月20日(日) 午前10時30分- 場所: 国立天文台三鷹さるばる棟大セミナー室 http://www.nao.ac.jp/about/mtk/access/</p> <p>10:00 受付開始 第1部 ■宇宙(天文)を学べる研究室と先生の紹介 10:30-11:30 はじめに、各大学の紹介 パート1 11:30-12:30 ランチ&ポスターセッション1 (ポスターを自由に回ってください) 12:30-13:30 各大学の紹介 パート2 13:30-14:30 ポスターセッション2 (ポスターを自由に回ってください)</p> <p>第2部 ■講演会 14:30-15:00 講師 秦和弘(総研大博士5年) 15:00-15:30 講師 新田伸也(筑波技術大学)</p> <p>15:30 終了(予定)</p>	<p>参加予定大学(あいうえお順)</p> <p>会津大学 コンピュータ理工学部 青山学院大学 理工学部 茨城大学 理学部 大阪教育大学 教育学部 桜美林大学 リベラルアーツ学群 国際基督教大学 教養学部 物理学メジャー 埼玉大学 教育学部、教育学部 総研大(宇宙研) 総研大(高エネルギー研) 国立天文台 千葉大学 理学部 筑波大学 理工学群物理学類 東邦大学 理学部 東京大学 理学系研究科 明星大学 理工学部 立教大学 理学部 早稲田大学 理工学術院 上越教育大学 学校教育学部</p>
--	--

会場: 国立天文台三鷹キャンパス
〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-1-1
JR有楽町線・有玉駅南口より徒歩15分
<http://www.nao.ac.jp/about/mtk/access/>

問い合わせ先
茨城大学 野澤直
(snozw@mx.ibaraki.ac.jp, 029-228-8370)

主催: 「宇宙(天文)を学べる大学」合同進学説明会 | 関東版実行委員会
国立天文台大学院教育委員会
後援: 天文教育普及研究会関東支部

図1 関東版のチラシ、ポスター。



図2 ポスター会場の様子 その1。



図3 ポスター会場の様子 その2。

大学コンピュータ理工学部, 青山学院大学理工学部, 茨城大学理学部, 大阪教育大学教育学部, 桜美林大学リベラルアーツ学群, 国際基督教大学教養学部物理学メジャー, 埼玉大学教育学部, 理学部, 総研大(宇宙科学研究所, 高エネルギー加速器研究機構, 国立天文台), 千葉大学理学部, 筑波大学理工学群物理学類, 東邦大学理学部, 東京大学理学系研究科, 明星大学理工学部, 立教大学理学部, 早稲田大学理工学術院, 上越教育大学学校教育学部の16大学であった(図1)。

3.2 大学紹介, ポスター講演

ポスター会場は講演会場ではなく, ロビーや廊下を使用した。A0用のポスターボードを壁の前に置いた。掲示枚数は30弱で, 余裕のある配置となり, 人の行き来は楽であった(図2, 3)。またパンフレットも取りやすいように1カ所に置いた。

ポスター発表時間は2回に分け, 60分ずつ行った。今回は昼食を各自が用意し, 会場で食事をす



図4 大学紹介の風景。

るようお願いしたため, ポスター前は盛況であった。ただし, 中学, 高校ではポスター発表というのが馴染みがないため, 60分は長いという指摘が中学生などから複数あった。

司会は, 各大学の紹介の前半を埼玉大学の寺田氏に, 後半を青山大学の馬場氏に, そして講演会を有本氏に願った。皆さん時間を守ってくださり, 予定していた時間で終わることができた(図4)。

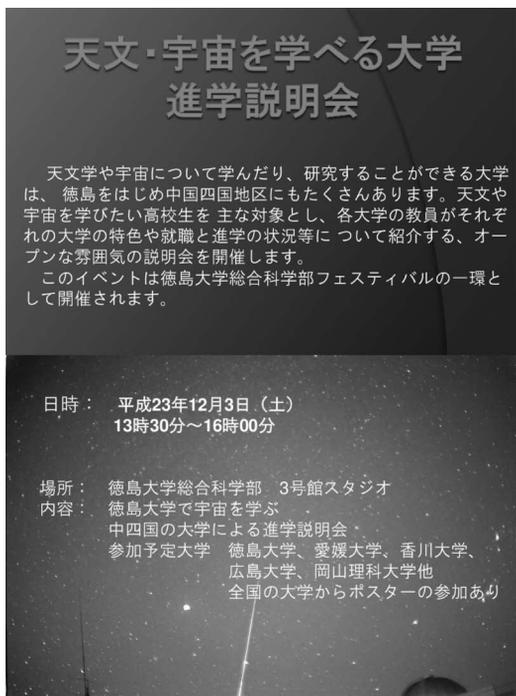


図5 中国四国地区のチラシ，ポスター。

3.3 講演会

今回は新たに天文講演会を企画し，以下の二人にそれぞれ30分で講演をお願いした。秦 和弘氏（総研大博士5年）が「ブラックホールの本当の姿を見る—人類最高の「瞳」の挑戦—」，新田伸也氏（筑波技術大学）が「蘇れ！君のセンス・オブ・ワンダー—博士の幸せ(?)な日々—」で話され，活発な質疑応答も見られ，非常に好評であった。

3.4 まとめと課題

発表には約17機関，ポスターだけならば約19機関を超える参加があった。また参加した人数は，記帳では100名程度（うち小学生2名，中学生15名程度，高校生は35名程度，一般30名程度）であった。アンケートの回収が50枚程度であった。そのアンケートの中で，どこから情報を得たか（複数回答可）の間には，インターネットが18名，親や友人からが17名，学校経由が10名，新聞が4名などと，親や友人経由の口コミが多

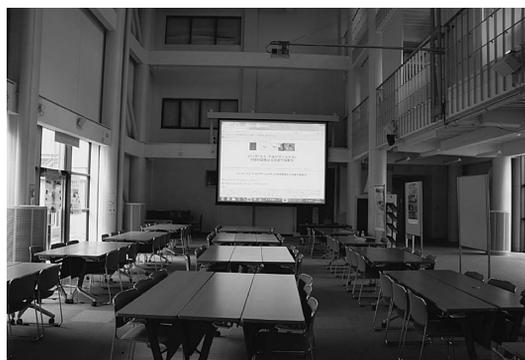


図6 中国四国地区進学説明会会場。

かったのが印象的である。

また関東特有の現象かもしれないが，参加者の2割弱となる小学生や中学生の参加が多いことが印象的である。また，晩秋のこの時期の実施が適しているかの議論が必要である。また学校の行事に加え，模試の日程に重なるという指摘もあった。

参加者から大学への要望として，講義科目，シラバス，進学就職状況などの共通フォーマットの一覧表を用意したら，わかりやすいという指摘があった。実現は難しいが，前向きに検討したい。

最後に，次回を実施するならば，今回の100名程度の参加人数は少ないと考え，その倍を集める気持ちで広報などを行う必要があり，協力者を是非とも必要としている。

4. そして，12月3日

4.1 当日の準備・開始まで

当日は11時より世話人および参加大学のスタッフが集まって準備を始めた。会場は徳島大学総合科学部のスタジオで，明るく大きなスクリーンがある会場である（図6）。

講演およびポスター発表に参加した大学は，西から順番に愛媛大学，広島大学，岡山理科大学，香川大学，徳島大学の5大学，ポスターのみの掲示による参加は，50音順に会津大学，青山学院大学，茨城大学，高知工科大学，国立天文台，埼

玉大学、上越教育大学、総合研究大学院大学、千葉大学、明星大学の10大学であった。講演は5分間のプレゼンテーションとし、その後各大学ごとにポスターの前に設置したブースで個別の相談を受けるということで準備と打ち合わせが完了した。当日のプログラムは下記のとおりである。

12:30 受付開始

13:00 開会の挨拶

13:05 各大学の紹介（5大学各5分程度）

13:30 ポスターセッション

16:00 終了

参加大学は少なめであるが、講演により一方的に話をするよりもポスターセッションの形式で話を聞いてもらうほうがより詳細に伝わるであろうということで、ポスターセッションの時間を長く確保した。昨年の広島会場における試みを発展させた形になった。

4.2 説明会始まる・予想外

さて、受付が始まってからの参加者は非常に不足が悪かった。参加者がほとんどこない。最終的な人数は、生徒5名、保護者3名の合計8名であった。これで「人数が少なかった、残念だ。」で終わるわけにはいかない。事前に用意してあったアンケート用紙の分析のほか、参加者に意見を聞いて今後の対策に役立てなければならぬ。

アンケート用紙の分析結果および聞き取りから予想外の現象が見いだされた。

- 1) 生徒の参加者のうち2名は奈良県から来ていた。保護者のうち2名はその生徒の保護者であった。
- 2) 徳島県内の生徒に希望する大学を聞いてみたところ、「徳島県外のできるだけ遠い大学に行きたい。」と言っていた。

参加してくれた高校生のうち半数近くが徳島県外からの来場者であった。これは公共交通機関の発達した地域では普通のことであろうが、徳島県は周囲を山と海で隔てられており、他県からの来場者はほとんど見込まれていない。にもかかわら

ず、奈良県からの来場者が複数名いたことについては全くの予想外であった。彼らはいずれも国立高等専門学校で、大学に3年次編入で進学を希望していた。今回の進学説明会を何で知ったかについて聞いてみると、両名とも「学校の先生から聞いた」と答えていた。進学後の研究テーマについては、ものづくりに対する関心が高いのは予想されることであり、聞き取りからもそのことが伺えた。説明会では、基礎研究でも新しく装置を開発することが大事だ、などものづくりに対する知識や技術の重要性を説いた。受験生の意識はどちらかということと宇宙開発のほうに興味があるとみられ、今後宇宙開発にかかわる人々の積極的な参加を呼びかけていくと受験生のニーズに適合すると思われる。

もう一つ、今回の主催者として最もショッキングな結果が上記結果の二番目である。大学側の気持ちとしては、「できるだけ自分の大学の良さをアピールして受験してもらいたい」わけで、「他のところに行きたい」と言われると落ち込んでしまう。実際に、徳島県内から来てくれた高校生は徳島大学のブースにはこなかった。

ただし、（強がりかもしれないが）徳島県内で四国の大学に進学したいと思っている学生は事前に筆者が出張講座で解説したときに話を聞いていたので、わざわざ今回の説明会に参加する必要がなかったのかもしれない。（そうであってほしい）

4.3 今後検討すべき課題

今年の進学説明会について二つの課題を挙げ、検討する機会をどこかでもつことができればと思う。一つ目は会場費の問題である。多くの国立大学法人では大学法人化以降、大学施設の使用については原則的に使用料を徴収することになっている。今回の件における事務の見解はこうである。「主催者が大学であれば会場費は徴収しない。主催者が大学教職員であってもイベントが学会関連の事業であれば会場費を徴収する。」今回の進学説明会は後者に該当すると判断され、会場使用料

をどうするかについて懸案事項となっていた。最終的に学部主催のイベントに組み入れることができ、今回は無料で開催することができたが、今後同様のことが続けば世話人の交渉力に依存することが大きくなり、負担の増大が予想される。

もう一つの問題は参加者の構成である。2年前の広島では人数が少なかった原因を分析していたので¹⁾、徳島県内の高校とは入念に打ち合わせをしていた。したがって、行きたいと思った高校生は参加できていたはずである。徳島県内の高校では大学の出張講義が盛んに行われており、徳島大学は例年多く出張講義に行っている。伏見は例年2~3の高校に出張授業を提供し、そのなかで徳島大学における宇宙の研究について紹介している。このことから、徳島県内の高校生にとって、四国内、特に徳島大学の進学説明はいまさら聞くまでもないという印象であったと言える。その点で、中四国以外の大学からの参加があれば徳島県内でも十分な参加者数があったのではないかと期待される。参加大学が中四国を中心とした大学ということで広報を実施したため、県外の大学進学を希望する高校生にとっては魅力の低い進学説明会になってしまったと考えられる。中四国に限らず、交通の便が悪い地方都市では地元の大学による進学説明会よりも全国の大学関係者が集まって説明してくれる場を期待していることが伺える。

今後の進学説明会実施については世話人の間で活発に議論していくが、特に地方都市における開催では全国の大学からの参加が重要であると言えよう。

謝 辞

第2回目の関東版を開くにあたって、参加者、各大学の関係者の皆様に、開催のためいろいろな手続きが遅れ、また説明会の進行にも至らない部分が多々あり、ご迷惑をかけたことをお詫び申し上げます。また開催するために無数の方の力を借りることができ、紙面を通じて御礼を申し上げます。そして、もし次回も開催されることがありましたら、これからもできる限りの参加や協力をお願いします。

中四国の開催については伏見以外の世話人の皆さんは遠路はるばるやってきて会場の準備をしてくださいました。また、参加人数が少ないにもかかわらず熱く語りかけてくださり誠に有難うございました。アンケートの自由記述欄には「先生から直接話を聞くことができ非常に良かった」と非常に好評であったことがわかります。蒲刈天文台の山根さん、広島の猫本さんには会場の準備、写真撮影のほか、参加者からいろいろな話を聞いてくださりました。その聞き取り内容から今後の開催について非常に貴重な情報を得ることができたと思います。誌上を借りて御礼申し上げます。

そして、この春の天文学会で開催される全国版合同進学説明会が盛況になることを祈り、ここに筆を置きます。

参考文献

- 1) 野澤 恵, 他, 2011, 天文月報 104, 94